

学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式（中学校用）

県名	三重県
----	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	鳥羽市立鏡浦中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	10
生徒数	13	13	15	0	41	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」をもった生徒の育成を目指して
小規模校の特性を生かしたきめ細かな指導の方法、指導体制の工夫

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

各教科

- ・ 2年生〔数学〕
...学習内容の増加、生徒個々の学習の習熟度に対応して、理解を深め、表現、処理の能力を高める。
- ・ 3年生〔数学〕
...3年間の学習についての補充し、「基礎・基本」の確実な定着をはかり、進路を切り拓く力につなげる。
- ・ 2年生〔英語〕
...学習内容の増加、生徒個々の学習の習熟度に対応して、関心を深め、表現、理解の能力を高める。
- ・ 3年生〔英語〕
...3年間の学習についての補充し、「基礎・基本」の確実な定着をはかり、進路を切り拓く力につなげる。

選択教科

- ・ 上記の学年・教科
...小集団の授業形態により、「基礎・基本」の補充・発展をはかる。

その他

- ・ 全学年〔総合的な学習の時間〕
...基礎・基本の発展、活用をはかり、「生きる力」につながる「学力」を充実させるため。
- ・ 全学年〔道徳〕〔特別活動〕
...「学力」の徳育的な面についての充実をはかる。

(2) 年次ごとの計画

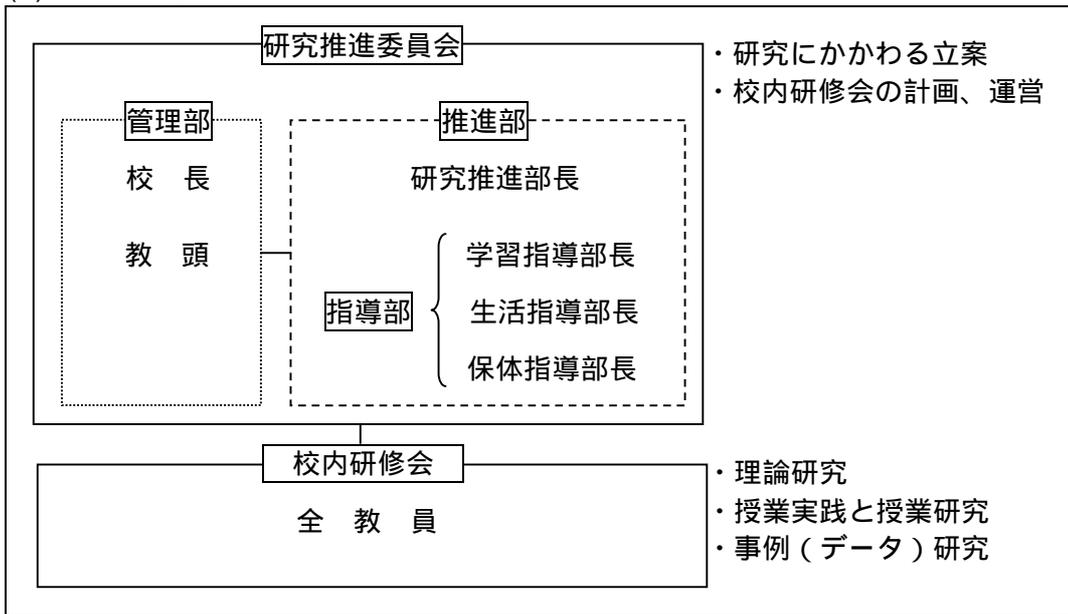
平成14年度	<p>テーマ 小集団、T・Tによるきめ細かな教科指導の実践</p> <p>研究の見通し 生徒の学習の実態を把握し、実態に応じた指導の方法、指導体制の確立を目指す実践研究を重ねることで、「確かな学力」の向上へつなげる。</p> <p>研究の内容・方法 ・ 3年生の数学、英語における小集団、T・Tによる授業実践。</p>
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の関心・意欲、学習課題や習熟度に対応した選択教科の実践。 ・「基礎・基本」、「確かな学力」の定着、向上に関する理論研究。 ・先進校の視察、研究会への参加。
--	--

平成15年度	<p>テーマ 小集団学習の充実と、「基礎・基本」の定着を目指した教育課程全般の体制のあり方 研究の見通し 「基礎・基本」の定着を目指した各教科の指導と、その補充と発展、活用をねらいとした選択教科、総合的な学習など、学力向上にせまる教育課程全般の効果的な編成をはかる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科における基礎・基本を定着させる授業づくりと学習指導のあり方。 ・2、3年生の数学、英語における小集団、T・Tによる授業実践。 ・「基礎・基本」の補充・発展をはかる選択教科の実践。 ・「基礎・基本」の活用、「生きる力」への発展性を視野に入れた総合的な学習の時間の実践。 ・学力向上へとつながる特別活動、道徳における徳育面の指導。 ・先進校の視察、研修会、研究会への参加。 ・学力検査の分析
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「基礎・基本」を定着させる効果的な学習形態のあり方、教育課程全般の体制のあり方 研究の見通し 「学力」について評価の4観点の視野に立った学習の効率的な指導方法、学習形態のあり方を探るとともに、学校教育の特性である集団や繋がり、本校の小規模校としての特性を生かした学習活動を教育課程全般の視野から確立する。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小集団、大集団など学習形態による学習効率の追求。 ・「技能・表現」「知識・理解」「関心・意欲・態度」「思考・判断」のそれぞれに視点をおいた効果的な学習方法の追求。 ・学力検査など各種の客観的なデータのまとめ。 ・研究の成果としてのホームページ、紀要（パンフレット）のまとめ。 ・研究の成果の普及に向けた発表。
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・選択教科でおこなっている小集団（少人数）学習においては、反復的な学習を継続させることで、「表現・処理」、「知識・理解」についての能力を高めることができた。とくに数学の取組については、四則計算、方程式、関数について理解や処理が不十分であった生徒のほとんどが、「おおむね満足できる」基準に達する結果を得た。また、「表現・処理」、「知識・理解」の能力が高まることで、「関心・意欲・態度」にも向上が見られたことが、生徒についての日常的な観察などを通して確認することができた。
- ・昨年度末、本年度（1月末）に「標準学力検査」CRTを実施しているが、本年度のデータについて現時点では未処理の段階である。年度末には2年間のデータについて比較し、取組の成果について分析、来年度の研究についてねらいをさらに明確にしたい。

2. 今後の課題

- ・「表現・処理」、「知識・理解」の能力については習熟度に対応した小集団の学習形態で反復的な学習を行うことで成果が見られることは顕著である。
- ・「関心・意欲・態度」「思考・判断」については、ある程度の大集団の中で、ともに学ぶ活動が不可欠ではないかと考えている。生徒相互の関わりの中で相乗的な効果が期待できるのではないかと推測している。また、学習の方法についても、実験や実習、見学など体験的な学習を充実させることが必要であると思う。
- ・小集団、大集団など学習形態と、反復的な学習や体験的な学習など学習方法を関連づけ効果的な指導の方法と体制について、実践的な取組を継続する中で明らかにしたい。

学力把握のための学校としての取組

- 「標準学力検査」CRTを全学年で学年末に実施。
- ・評価・評定についての客観的なとらえをもち、3年間の比較データとする。
 - ・「学力」についての課題を分析、今後の対策や方向を明確化する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成14年度6月に鳥羽市教育委員会の指定による教育課程に関わる「研究発表会」を開催した。「総合的な学習の時間」の成果から「学力」、「生きる力」のとらえや、数学の小集団学習、英語、社会のT・Tによるきめ細かな指導のあり方について授業公開による提案をし、学力向上フロンティアスクールとしての研究の方向性を示した。
- ・平成14年度～15年度の取組の成果をもとにして、平成16年度の研究計画、研究実践の状況を中心としたホームページを編集、またそれと同様の内容でパンフレットを作成し、普及を図りたい。平成16年度5月末までの完成を予定する。
- ・研究発表会として定めた期日はとらず、他校、教育機関、地域等への公開は期日を問わず、パンフレットの配布と説明、日常の授業公開で対応したい。
- ・フロンティアティーチャー（研究推進部長）は、鳥羽市の「基礎学力向上委員会」の委員として、本校の取組について常時報告をしている。委員会の立ち上がった平成15年度においては市全体で取組を進めている「学力調査」の実施に関わり、前年度の本校の実践の状況や成果について報告し、検討に加わった。今後の委員会においても、本校の教育実践全般から参考となる資料提示をし、委員会の充実につとめたい。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無